

美味しい海の幸をPR

南あわじの美味しい海の幸をPRする「水産まつり」が1月28日、福良漁業協同組合前で開かれました。

このイベントは市内5つの漁協で組織する「南あわじ市水交会」が主催して平成18年から毎年開催しています。

フグのてっさ・みそ汁、タコ・ワカメのしゃぶしゃぶ、タチウオとイカの天ぷらなど各漁協が自慢の品を振る舞い、観光客や家族連れらの長い行列ができ、新鮮な旬の魚の味を堪能していました。

徳島から大人3人・子ども5人で訪れた村野弘明さんは、「イベントの案内を見て来ました。タコのしゃぶしゃぶ、タチウオの天ぷら、どれも美味しい。子どもに好評で来て良かった」と笑顔を話していました。



01 タチウオの天ぷらの振る舞い。
02 南あわじ市の海の幸を堪能する来場者。



01 大勢の観光客でにぎわう灘地区アンテナショップ「昇り坂」

灘地区の魅力若者が発信

灘地区アンテナショップ「昇り坂」

灘地区の若者が1月21日と28日、2月4日の3日間、多くの観光客でにぎわう灘黒岩水仙郷で期間限定の特産品アンテナショップ「昇り坂」をオープンしました。

この取り組みは地域づくりチャレンジ事業（広報2頁）の一環として行われたもので、灘地区で水揚げされたアジの干物やフライ、サザエ、ひじきなどの特産品の販売が行われました。

「昇り坂」代表の西山友和さん（灘）は「PRも兼ねて地元産品を販売している。これら産品を通して灘地区の良さを知ってほしい」と話してくれました。

防災お菓子バッグを作って学ぶ

西淡志知小学校のふれあい・防災行事が1月19日に行われ、全校生44人と保護者や地区の老人クラブ、民生委員らが参加。餅つきで交流を深めたあと、防災について学びました。

同小の山下百合香教頭は、もしもの時のために避難経路や避難場所、非常持ち出し袋について家族と話し合っておくことが大切と参加者らに話し、子どもが好きなお菓子で作る非常持ち出し袋「防災お菓子バッグ」の作り方を説明しました。

児童は保護者らと楽しそうにバッグを作り、救急用品としてティッシュとマスク、救急絆創膏、ウェットティッシュを入れました。山下教頭は「賞味期限が切れる頃に、家族とこのお菓子を食べたり新しいお菓子バッグを作ったりしながら、防災について話し合してほしい」と呼びかけました。



01 家族で防災お菓子バッグを作る児童。02 作った防災お菓子バッグを手にする児童ら。



02



継承されてきた郷土の文化を伝える

南あわじ子ども伝統芸能発表会

第14回子ども伝統芸能発表会が1月28日、中央公民館で開催されました。

この発表会は、市内各地で受け継がれてきた郷土芸能を子どもたちによる発表を通じて、歴史・伝統・文化への関心と理解を深め、豊かな人間性を育ててもらうことを目的に開催しています。

今年は14団体約300人が出演して日頃の練習の成果を披露。会場を埋め尽くした観客からは大きな拍手や声援が贈られていました。



子どもたちが日ごろの練習の成果を披露しました。

産業文化センター 4月8日（日）まで開催中！

ひな人形と瓦のコラボ展示に



01



02

瓦とひなの会が、2月10日から産業文化センターで「瓦とひなまつり」を開催。800体以上のひな人形と淡路瓦と一緒に展示しています。

この催しは、平成28年から始まり、今回で3回目。平成28年は3,500人（うち島外800人）、平成29年は4,700人（うち島外1100人）の来館がありました。

今回は、「さくら」をテーマに展示場が飾り付けされており、島外からも多くの方が来館しています。

2月14日に来館した地元の津井幼稚園児は、ひな壇の前で「ひなまつり」の歌を披露し、展示されたひな人形を観賞しながら、少し早いひな祭りを楽しみました。

同展示は、4月8日まで。女の子は着物を試着し、記念撮影もできます。

陶瓦とひなの会（前谷） ☎090-5133-9800

